



各種設定方法（つづき）

5 濃度制御設定

CO<sub>2</sub> 濃度や PM2.5 濃度による換気量自動運転の実施を個別に選択できます。  
両方の制御が有効の時は、目標濃度に近いほう（濃度の高いほう）の換気量で運転します。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001
560	CO <sub>2</sub> 濃度制御	濃度制御無効	濃度制御有効 （出荷時）
566	PM2.5 濃度制御	濃度制御無効	濃度制御有効 （出荷時）

※工場出荷時は CO<sub>2</sub> 濃度制御と PM2.5 濃度制御の両方が有効に設定されていますが、どちらか一方の制御を無効に設定する場合は下記のような不具合が生じるおそれがあるので十分にご注意下さい。

- 1)CO<sub>2</sub> 濃度制御を無効にした場合  
PM2.5 濃度が低い状態を維持すると換気量が低下するため屋内の CO<sub>2</sub> 濃度が上昇してしまうおそれがあります。
- 2)PM2.5 濃度制御を無効にした場合  
CO<sub>2</sub> 濃度が低い状態を維持すると換気量が低下するため屋内の PM2.5 濃度が上昇してしまうおそれがあります。
- ※グループ接続システムでの濃度制御については、6 項を参照してください。

6 システム構成によるリモコン表示と濃度制御

- 全熱交換ユニット単独システム（全熱交換ユニットが複数台グループ接続されている場合）  
リモコン (RBC-AMSU52 以降) の CO<sub>2</sub>・PM2.5 濃度表示は、親機に接続されているセンサーの検出濃度が表示されます。  
センサーによる換気量自動制御はセンサーが接続されている全熱交換ユニットのみが対象となり制御を行います。  
センサーが接続されていない全熱交換ユニットは、換気量自動選択時に固定換気量で運転を行います。(8 項を参照)
- 空調機との連動システムの場合  
リモコン (RBC-AMSU52 以降) の CO<sub>2</sub>・PM2.5 濃度表示は、室内アドレスの一番小さい全熱交換ユニットに接続されているセンサーの検出濃度が表示されます。  
センサーによる換気量自動制御はセンサーが接続されている全熱交換ユニットのみが対象となり制御を行います。  
センサーが接続されていない全熱交換ユニットは、換気量自動選択時に固定換気量で運転を行います。(8 項を参照)

7 最低換気量設定

換気量自動運転時の最低換気量を切り換えることができます。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001	0002 (※1)
79B	濃度制御最低換気量	微弱 （出荷時：VN*・UM* 機種）	弱	冷房 / 暖房時は弱 送風時は微弱 （出荷時：MMD・UVN* 機種）

※ 1 MMD・UVN\* 機種のみ表示されます。

8 センサー非搭載全熱交換ユニットおよびセンサー故障時の固定換気量設定

上記 6 項のシステム構成でセンサー非搭載の全熱交換ユニットは、リモコンで換気量自動設定時に固定換気量で運転します。また、センサーを搭載している全熱交換ユニットで濃度制御を行っているセンサーが故障時（※ 2）も固定換気量で運転します。  
この固定換気量を設定できます。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001	0002
79A	固定換気量	強 （出荷時）	弱	微弱

本項目コードが【強】設定の場合、項目コード (DN)「5D」が【特強】設定になっても【強】で運転します。  
【特強】の換気量が必要な場合は、全熱交換ユニットの据付説明書（応用制御の **定電力制御の設定**）をご覧ください。  
※ 2 CO<sub>2</sub> と PM2.5 の両方の濃度制御が有効で片方のセンサーが故障している場合は、故障していないセンサーで換気量自動運転を行います。

9 CO<sub>2</sub> センサー校正機能設定

CO<sub>2</sub> センサーは過去約一週間で一番低い CO<sub>2</sub> 濃度を基準値（一般の外気 CO<sub>2</sub> 濃度相当）と認識し、自動で校正を実施します。外気 CO<sub>2</sub> 濃度が一般的な基準値より常時高いと思われる場所（幹線道路沿いなど）や室内 CO<sub>2</sub> 濃度が常時高い環境で使用される場合は、自動校正の影響により実際の濃度と検知濃度のズレが大きくなる場合があるため、自動校正機能を無効にするか、必要に応じて強制校正を行ってください。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001	0002
564	CO <sub>2</sub> センサー自動校正機能	自動校正有効 強制校正無効 （出荷時）	自動校正無効 強制校正無効	自動校正無効 強制校正有効

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001 ～ 0100
565	CO <sub>2</sub> センサー強制校正	実施しない （出荷時）	設定データ× 20ppm で校正

強制校正は項目コード (DN)「564」＝ 0002 に設定後、項目コード (DN)「565」に数値を設定してください。  
強制校正を行うためには CO<sub>2</sub> 濃度を測定できる計測器が別途必要です。CO<sub>2</sub> 濃度が安定している時間帯に全熱交換ユニットを運転させ、吸入口 (RA) で測定した CO<sub>2</sub> 濃度数値を速やかにリモコンから所定の方法で設定してください。  
強制校正は設定終了後に一度だけ実施します。定期的には実施しません。

10 CO<sub>2</sub> センサー標高補正

全熱交換ユニットが設置されている標高によって CO<sub>2</sub> 濃度に補正が入ります。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0000 ～ 0040
563	CO <sub>2</sub> センサー標高補正	補正なし（標高 0m） （出荷時）	設定データ× 100m の標高補正

11 換気量自動固定運転設定

空調機との連動システムの場合、リモコンから換気量【自動】を選択できません。項目コード (DN)「796」の設定を変更することで、リモコンの設定換気量によらず全熱交換ユニットを換気量【自動】で運転させることができます。  
この場合、換気量は【自動】固定となりますのでご注意ください。

項目コード (DN)	設定データ	0000	0001
796	換気量自動固定運転	無効 （リモコン設定換気量に従う） （出荷時）	有効 （換気量自動固定）

CO<sub>2</sub>・PM2.5 センサーの点検コード一覧

その他の点検コードについては、全熱交換ユニットの据付説明書をご覧ください。

点検コード	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容
E30	室内 - センサー基板間通信異常	室内	室内とセンサー基板間通信ができない場合（運転継続）
J04	CO <sub>2</sub> センサー異常	室内	CO <sub>2</sub> センサーの異常を検出した場合（運転継続）
J05	PM センサー異常	室内	PM2.5 センサーの異常を検出した場合（運転継続）

※検出機器の室内は、全熱交換ユニット、空調機室内ユニットです。